

2024年 富田林市立図書館から、 5年生・6年生のみなさんへ

ブックキャット

ネコのないしょの仕事！

ポリー・フェイバー／作
クララ・ヴリアミー／絵
長友 恵子／訳 徳間書店



黒ネコのモーガンが生まれたのは、第二次世界大戦下のロンドンの町です。お母さんと妹と、3びきでくらしていましたが、空襲でモーガンはひとりぼっちになってしまいました。そこでモーガンは出版社でくらしはじめ、ネズミたいじをしたり、作家たちの手助けをしたりすることで「ブックキャット」として働くようになりました。

楽しむ伝統文化 着物

①着物のきほん

織田きもの専門学校／監修
保育社



日本の伝統的な衣服である着物について、どのくらい知っているでしょうか。実は、着物にもいろいろな種類があります。成人式などで着られている振袖や夏によく見る浴衣もそのひとつです。この本を読むと、着物や帯などの種類だけでなく着物についての歴史も知ることができますよ。この本で着物を身近に感じてみませんか。

夏のおてがみ

図書館には、楽しい本がたくさんありますよ。

夏休みに、遊びにきてくださいね。

ティーカップ

レベッカ・ヤング／文
マット・オットリー／絵
さくま ゆみこ／訳 化学同人



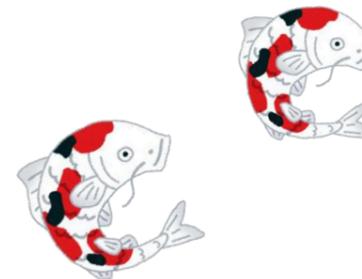
生きていけるところをさがして、男の子は、本とビンと毛布、それとティーカップを持って海の旅に出ました。ティーカップには、よく遊んだ場所の土を入れています。波がやさしい日、あれる日、光がさす日、暗い日がありました。陸地をめざして、男の子はまいにち水平線をながめます。やがてたどりついた陸地で「なにかをかえる、ふとしたきっかけ」をじっと待っています。

錦鯉を創る

新潟から世界へ

松沢 陽士／文・写真
小学館

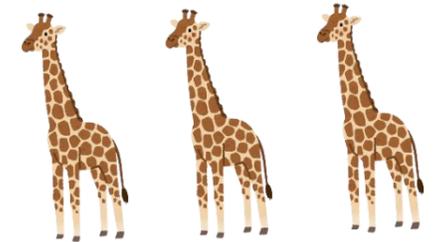
錦鯉はきれいな色でうつくしいもようのある鯉です。これはそんな錦鯉を創る人たちを紹介する本です。ふつうの黒い鯉の中に、ときどき変わった色やもようのある鯉が生まれることがあります。その鯉を同じ池にあつめて大切に育て、きれいな色やもようのある鯉が生まれるようにします。こうして、すばらしい錦鯉を創っていきます。



林にかくれるキリンを追う

もっと知りたい野生の姿

齋藤 美保／著
タカギ ノネ／画
くもん出版



齋藤さんは、アフリカ大陸のタンザニアでキリンの調査をしています。肉食動物から身を守るのに適したミオンボ林は、キリンより背の高い大きな木が茂っています。地元のレンジャーと協力し、キリンの保育園のようなコロニーも発見しました。野生のキリンは、私たちが知っている動物園のキリンとは、ずいぶん違うようです。

アアウをとってこい

ミクロネシアのむかしばなし

秋野 癸巨矢／文
秋野 不矩／絵
BL出版



南太平洋のエブ島に住む子どもたちが、鳥になって飛ぶことができたころのおはなし。島の長老は、ぶきつちよな子どももペチュワクにすばらしい力をあたえようと考え、人に力をあたえる「アアウ」を取ってくるよう巨人にたのみます。ペチュワクはアアウをもらって、なんでもうまくできるようになるのでしょうか。

ふしぎいっぱい！学校の木

かんさつ あそび 実験

高柳 芳恵／文・写真
偕成社



学校にはどんな木がありますか？「ソメイヨシノ」や「イチヨウ」はありますか？この本では、木のかんさつのコツや、実験方法などを知ることができます。シャボン玉や笛などの作り方も書かれています。たくさんのお木が載っているの、きっとあなたの学校にある木も見つかるはず。かんさつしたり、あそんだり、ぜひ楽しんでください。

わたしのすみか

イザベル・シムレー／文・絵
石津 ちひろ／訳 岩波書店



地球上には、自分で家を作ってくらす生き物がいます。完成した家には、生き抜くための多種多様な工夫を見ることができます。葉っぱでできた家に、コケでできた家、どろで作った家。他にも珍しい家がたくさん登場します。生き物たちはどのようにして自分の家を作るのでしょうか。作り方を学ぶとともに、お気に入りの家を見つけてください。

いじめにパンチ！

あたしの小学校ライフ最後の戦い

黒野 伸一／作
佐竹 美保／絵 理論社



小学6年生のゆずはは、東京からお父さんの実家へ引っ越してきました。仲間外れにされないかと恐れていましたが、テストや体育の徒競走がうまくできて、クラスのヒーローのようになります。ほっとしたのも束の間、学級委員の村山さんから、頼りになりそうなゆずはにクラスのいじめを何とかしてもらいたい、とお願いされて…。いじめを始めとした現代社会の課題を考えるきっかけになる1冊です。

どうなるの？未来の食べもの

最新のフードテックの世界に潜入！

①[肉]培養肉と代替肉で食料難を救え！

清水 洋美／著 石川 伸一／監修
汐文社



お肉の未来を考えましょう。

2050年に世界で住む人が90億人を超える予想です。世界中で食べられる肉も1年間に16.3億トン必要になり、このままでは足りなくなってしまう。そこで、野菜の大豆で作った代替肉が開発され、70種類以上作られています。はたして未来の食卓にはどのような肉が並んでいるでしょうか。

和算の道をひらけ！

江戸の数学ブームをおこした吉田光由

鳴海 風／作 おとない ちあき／絵
あかね書房



子どものころ、しんせきの素庵から教わった工事の仕事にあこがれて、たくさん勉強をした光由。大人になって、素庵から水路を通す仕事をたのまれます。これまで学んできた算術だけではなく、人々の暮らしや、安全を考えて工事の計画を立てました。江戸時代に、算術(算数)を広め、大人から子どもまで読まれる人気の本「塵劫記」を書くまでのお話です。

ドロップイン！

あさだ りん／作 酒井 以／絵
金の星社



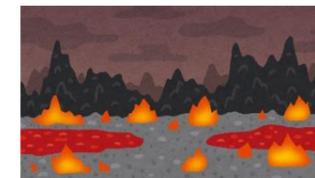
スケートパーク取り壊し計画反対署名を隣の席の涼から頼まれた葵は、やっても無駄と断ってしまう。しかし葵も小さなころ、パパとスケボーを楽しんでいた。久しぶりに乗っていると、涼のお兄さんから声をかけられ、スケートパーク存続をかけたスケボー大会に出ることになった。葵、涼、そしてスケートパークの、挑戦がはじまる。

読み継がれてきた名作

じごくのそうべえ

桂米朝・上方落語・地獄八景より

田島 征彦／作
童心社
2002年



綱渡りを披露していた軽業師のそうべえは、綱から落ちて死んでしまい、えんま大王に地獄行きを命じられます。途中で出会った山伏、歯抜き師、医者、そしてそうべえの4人は糞尿地獄、熱湯釜ゆで、針の山も、それぞれの特技でへっちゃらです。人吞鬼にのみこまれたそうべえたちは、はたしてどうなるのでしょうか。

